

私の好きな 山田町

人物部門



グランプリ 加藤優子・作

「家族、年の差94歳!!」



準グランプリ 糸川陽俊・作
「山田の大名行列」



準グランプリ 矢野倉隆・作
「復興山田祭りー大杉神社」



山田町社会福祉協議会が1月から2月にかけて「私の好きな山田町」をテーマとして作品を募集した山田町フォトコンテスト。その審査が終わり、4月15日から21日まで展示会が開催されました。

応募数210点

同コンテストは、同協議会が写真をきっかけに町民の新たな生きがいづくりとコミュニケーションの再生を目的に企画。本町初の開催となりました。

撮影対象は、本町で3年以内に撮影された写真が対象で、16歳以上の「人物部門」と「風景部門」、16歳未満の「自由写真部門」の3部門で募集が行われ、町内外から合計210点の応募がありました。審査の結果、人物部門が加藤優子さんの「家族、年の差94歳!!」、風景部門は菊地祥夫さんの「海、ふるさと山田」、自由写真部門は佐藤ななみさんの「空と校舎」がそれぞれグランプリに輝きました。

写真教室の開催

同コンテストの開催に合わせて仮設住宅集会所など「写真教室」を町内6カ所で開催。高齢者や親子のほか、普段集会所に立ち寄らない男性の参加者もありました。また、山田中美術部

の生徒約20人が「一日山中写真部」として校内で撮影会を開催。部活動風景や男子生徒、女子生徒で撮影し合うなど、生徒同士の交流が深まっていました。

思い入れのある一瞬

応募された写真は、震災前のお祭りを写したものをはじめ、何気ない日常を切り取った作品や震災後にボランティアで訪れた方が写したものもありました。コンテストを担当した同協議会復興支え愛センターの岩浅大輔(24)さんは「町内外のたくさんの方から応募していただき、震災前の明るい記憶や暗く影を落とした震災の記憶など、それぞれの思いの込められた山田が写し出されています」と話します。



写真教室の様子

自由写真部門



グランプリ 佐藤ななみ・作

「空と校舎」



準グランプリ 高橋爽香・作
「山田の輝く星」



準グランプリ 田中陽葵・作
「ぼくらの海」

「海、ふるさと山田」

グランプリ 菊地祥夫・作



風景部門



準グランプリ 後藤良喜・作
「希望の朝日」



準グランプリ 赤坂満夫・作
「希望の夜明け」



作品展には多くの人を訪れました

私の好きな山田町

止まることない時間の一瞬を切り取ったたくさんの「私の好きな山田町」。会場に展示された懐かしい風景や元気いっぱいの子どもの写真に目を細める人、震災の悲惨な光景、また明るい未来へ向かう姿の写真に涙を流す人などさまざまな感情があらわれていました。